

右？左？国政選挙の考え方、後編

前編の vol.73 で「既存政党の全部に不満を持っている人はどのように国政選挙を考えれば良いのでしょうか。」と述べました。続きになります。：棄権してしまう？白票を投じる？それは絶対に駄目です。棄権する事によりたくさんのデメリットがあります。ひとつだけあげるのであれば、vol.72「投票率を上げるには！？」で述べましたが、「低い投票率によって恩恵を受けている人達が存在します。そして、恩恵を受けているのは私達市民ではありません。」という点に尽きると思います。では、どう考えれば良いか。国政選挙特有の争点になっている問題のイエス・ノーで判断するのが王道ですが、その前にもっと根本的な事を意識する必要があります。それは「政治で重要なのは、チェック&バランスであり、歴史を鑑みると、どんな権力も、必ず腐敗する！という危機意識です。民主主義が公正に機能するには、与党が野党を少し上回っているくらいがちょうど良いです。」その観点が抜けて、毎回、振り子のようチェック&バランスが危うくなるくらい、与党が票を集めてしまうのは、政策決定がスピーディになる！というメリット以上にデメリットの方が多い。と考えていますアンバランスな状況が長く続く政治は、一時は良いかも知れませんが、強烈なしつぺ返しを食らいます。しつぺ返しを食らうのはいつも私たち市民です。この点を意識して、今後の投票行動をとることが肝要です。：皆さんがお忙しいのは重々承知しています。でもその上で、減り続ける投票率について、その現状で行われる政治について、きちんと向き合って考えていく時期です。いち市議会議員が語るには大風呂敷を広げ過ぎたテーマだと自覚しております。前回のものも含め、少し言い過ぎでしょうか。でも、「激しく世の中に突きつけていくものが無ければ、議員をやっている意味がない。」とすら感じています。そして、やはり言いたい事はひとつです。みなさんで「理想的な社会が実現される議会(議員構成)」を思い描き、話し合ってみて下さい。個人々の想いが集まっていけば、良い社会、街が形成されていくと信じています。

今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成30年5月14日

増田好秀